

インタビュー

幼保連携型認定こども園の1年

宮川美幸・新潟県妙高市立よつばこども園保育教諭

制度がスタートして20年を迎える「認定こども園」。子ども・子育て新制度では幼保連携型の二重行政が解消されたが、現場での状況はどうなっているのか、ベテラン保育教諭からお話をうかがった。

認定こども園の1年

「こちらの「妙高市立よつばこども園」は、ちょうど「子ども・子育て新制度」がはじまった二〇一五年四月に開園したそうですね。

宮川 はい、そうですね。妙高市立の二つの保育園と一つの幼稚園が統合して認定こども園になりました。新井市、妙高村、妙高高原町の三つが二〇〇五年に合併して妙高市になり、ここ新井地域に

は二園の公立幼稚園がありました。しかし、いずれの園も施設が老朽化していきまして、耐震性の確保のために改築が必要になっていったんですね。近隣の地域の保育園も施設の老朽化が進んでいたため、この際、保育園

・幼稚園・子育て支援の機能をあわせ持った幼保連携型認定こども園へ統合しようということが進められたんです。

宮川さんはもともと保育園と幼稚園のどちらで働いてこられたんでしょう



妙高市新井地区にある「妙高市立よつばこども園」

か？

宮川 一九九六年、当時の新井市立の公立保育園が最初の職場でした。ただ今の妙高市もそうなのですが、保育教諭はみんな幼稚園教諭の資格も持っていて、保

みやかわ・みゆき●一九九六年、新井市（現妙高市）立保育園に入職、以降同市内の保育園、幼稚園での勤務を経て、二〇一五年四月より現職。自治労新潟県本部保育部会幹事。



なので、そういう部分ではスムーズだったのかもしれないね。

子どもたちの構成はどうなっているのでしょうか？

宮川 全体で一七二人の子どもたちがいます。一号認定（従来の幼稚園籍に該当）の子どもが四六人、二号認定（従来の保育園籍に該当）の三歳〜五歳が八人、三号認定の〇歳〜二歳が三七人。それからこれから六ヵ月を迎えて入ってくる予定の子どもが五人ほどいて今年度は一七七人になる予定です。

こども園の仕事はどんな流れになるのでしょうか？

宮川 まず朝の八時二〇分から朝礼があるので、遅くともその一〇分前には園に着いています。早朝保育の担当になってくるときは、七時半からの保育に対応できるようにします。八時半からが通常の保育の仕事で、一一時二〇分ころから給

育園と幼稚園を異動で行き来するんです。ですから幼稚園も含めて、私の場合はここが七ヵ所目になるんです。

なるほど。そうなると幼保連携のこども園への移行もスムーズだったんですね。

宮川 そうですね。顔見知りだったり、一緒に仕事をしたことのある職員同士です

食の準備です。ここには給食室があつて調理員の方もいて、全園児が完全給食です。当番の子どもたちも準備を手伝って一一時四〇分から給食を食べ始めます。

午後は一四時に一号認定の子どもたちが帰るので、一三時半くらいまで各クラスで帰りの会などをします。そして、一号認定の子どもは帰りの準備をし、二号認定の子どもはお昼寝になります。私は四歳児のクラスの担任をしています。私は二クラスあつて、それぞれのクラスに一号認定、二号認定の子どもと一緒に保育を受けています。担任は毎日交代して、一号認定の子の降園と二号認定の子のお昼寝の担当を分担しています。

一四時を過ぎた段階でようやく休憩を取ることができる感じですね。一四時四五分からの一五分は集まれる職員全体でお茶を飲む時間になっています。一五時になると子どもたちを起こして、おやつを食べさせ、一六時には二号認定の子どもたちを帰していきます。延長保育の担当

にあたっていないときは、ここからようやく事務仕事をしたり、保育室の掃除をしたり、翌日の準備などに手を付けます。ですから一七時一五分の定時に帰れるということはなかなかないですね。妙高市は水曜日がノー残業デーになっているので、その日は別ですが、家に持ち帰っての仕事なんかもあるんですよ。もちろん延長保育にあたっていければ一九時までは延長の子どもたちを見ています。

幼保連携ならではの課題

——幼稚園籍、保育園籍の子どもたちが一緒にいるというのはなかなか大変なんですね。

宮川 幼稚園であれば、子どもたちが帰れば、職員で会議もできますし、保育園なら、子どもたちがお昼寝をしている二時間くらいの間に休憩もとれて会議もできるんですが、両方の子どもがいるわけですから、休憩を取る時間もなかなかない、会議の時間もなかなか取れないとい

う状況なんですよね。他にも仕事がいっぱいありますから、それがなかなか進まないわけです。ですから、会議の持ち方を工夫して、会議の資料は事前に配布して目を通してもらって会議に臨むとか、会議自体も要点を絞って進めていくということを意識するようになりましたね。

——子どもたちの安全といったことも考えるとなかなか負担が大きいですよね。

宮川 そうですね。子どもにも怪我をさせてはいけないというのはまず第一にあり



保育中の宮川さん

ますから、そこはすぐ気を張っているところでもあります。端から見ると保育者はただ子どもと遊んでいるだけのように思われるかもしれませんが、事務仕事の量もすごく多いんですよ。クラスを運営していくにあたって、月の指導計画を立てて、毎日の評価・反省を書いています。その他に経過記録として、子どもの日々の記録を書いています。妙高市の場合には経過記録と三歳児からは指導要録を書いて重複している部分があります。これはほとんど新潟で開催される全国保育集会にむけてレポートを書いたりしているんですが、そこは課題かなと思っっています。他にも、クラスだよりをつくったりという仕事もありますし、ほんとに事務仕事が多いんですよ。

妙高市の子育て環境

——大都市部などでは保育園などに入れない待機児童が問題になっていますが、妙高市はどうでしょうか？

宮川 妙高市は人口が三万四〇〇〇人ほどですし、待機児童はゼロですね。とくに三歳四歳五歳の子どもたちは保護者の希望することも園や保育園に行けていると思います。〇歳一歳二歳の場合は定員枠を超えて応募があるため、希望の園に行けず、第二希望の園に行ってもらうこともあるんですが、それでも入れないということはありませんので、ほぼゼロと言っていると思います。山あいの地域では子どもも少ないので、定員に余裕があるところもあります。

——この園のそばには学校や教育施設が多いですね。

宮川 そうなんです。すぐ隣には妙高市立中央小学校が、その向かい側は理科や科学の体験学習施設の「わくわくランドあらい」、そしてこの園の敷地内に新井中央児童クラブがあって、このよつばこども園と合わせて、新井中央小学校区コミュニティ・スクールの取り組みが進められています。地域の住民の方と学校・園

関係者がいっしょになって学校運営協議会というものを設置して、住民の方々の思いを学校・園の運営に反映させていくということ、二〇一五年から取り組みがはじまっています。

今後の課題について

——一年が過ぎて、課題のようなものは見えていますでしょうか？

宮川 やはり人、保育教諭の確保ということが課題になってきています。事務仕事の多さということも申しあげましたが、とくに子どもが小さければ小さいほど大人の手が必要になりますので、それに対応できる人員の確保が課題です。

それから三歳児の配置基準の改善ですね。児童福祉法の省令では三歳児二〇人に対して職員を一人という配置基準なんですけれども、新制度によって国からの施設への補助は三歳児一五人に対して一人という計算になったんですね。でもそれは人に対して使うようにと明記されて

いるわけではないので、自治体によっては一五対一という人員配置が難しい園もあるんです。でも補助がある以上は、三歳児一五人に対して一人に見合う人員を置いてほしいですね。あるいは、人数はいても、無資格のパートさんを置いていることもあるので、やはり私たち組合としては、有資格者を配置してほしいという話を話しています。

それから、認定こども園に勤務する場合は、保育士資格と幼稚園教諭資格の両方が必要になります。妙高市は以前からそうでしたが、そうでないところもありますので、そうした場合に、資格を取るため、あるいは資格を更新するための費用を補助するなどといった対応を求めていきたいと思っています。

それと臨時保育教諭の処遇改善ですね。

非正規職員ということで、クラス担任を持つている方もいるのに、給与や手当、年休の日数なども正規職員とは格差が出ていますので、これを少しでも近づけていくように求めていく必要があると思っています。

子どもたちと接する仕事でしたくて保育教諭になったわけですから、子どもの成長を見たり、子どもたちの笑顔を見ているだけでも、やりがいのある仕事です。ただ、見えにくい事務仕事が多くて、疲労感やリフレッシュできない部分を持ち越してしまうこともあって、仕事をどう効率的に回して、保育の方に力を入れるようにできるかが自分としての課題かなと思っています。組合にも関わるようになったので、それが本当に必要な事務なのか、必要性をみながら過重な負担を減

らしたりしていくことが、妙高市のためでもあるし、自分のためでもあるし、それが結局子どもに返っていくわけですから、そんな提案をできるようにしていきたいと思います。

七月二十九日から三十一日まで、第三七回全国保育集会が新潟で行われます。テーマは「来なせや新潟！ トキめけ未来の子どもたち！ 笑顔で語ろう子どもの明日を!!」です。私は認定こども園の分科会に出ます。私が発表するわけではありませんが、妙高市の取り組みのレポートもありますので、参加される方はぜひのぞいて見てください。

（二〇一六年八月八日於…妙高市立よつばこども園）